2009年（平成21年）9月26日（土曜日）

岩手日報

地域課題へ学生パワー

県内5大学がプロジェクト展開

医療調査や世代間交流… 本年度5件取り組み

若い「脳力」で地域課題を解決しよう―。県内大学の学生が地域の医療・社会福祉、教育、経済などに関する課題に取り組む「学生の地域参加プロジェクト」が進んでいる。

光るどろだんご作り指導者養成講座の準備に取り組む県立大の佐藤佳菜代表（左から2人目）のグループ

県内5大学で構成する「いわて高等教育コンソーシアム」が取り組む教育力向上事業の一環。学生ならではの視点を生かし、独創的な活動を展開する。

プロジェクトは学生の発想力や行動力などを養うことを目的に初めて実施。1件当たり40万円以内の経費を支援する。本年度は岩手医大1件、県立大4件の計5件が選ばれた。

岩手医大の医、歯、薬の3学部の学生からなる衛生検査部（佐藤俊代表＝医学部3年）は「地域医療の実態調査」を企画。医療過疎の現状を把握し、問題点を検証する。

10月中に医師不足の原因や地域医療の現状などを患者や医師らからアンケート調査し、下旬に病院で直接話を聞く予定。佐藤俊代表は「地域医療の利点、欠点を探り、今後に生かしたい」と意気込む。

県立大社会福祉学部で保育を学ぶ佐藤佳菜代表（3年）らのグループは高齢者と保育者対象に「光るどろだんご作り指導者養成講座」を企画。高齢者と子どもの世代間交流の推進などが狙いだ。

27日午前10時から、滝沢村の同大で作り方を指導する。佐藤佳菜代表は「作る楽しさを伝える人を増やし、交流を通して保育について学びたい」と話す。同講座の問い合わせはEメールdoronkotai@gmail.comへ。

ほかのプロジェクトは次の通り（プロジェクト名、代表者、活動内容の順）。

▽「STEP」（大越香澄＝県立大社会福祉学部4年）思春期の発達障害児とそのきょうだいに対する支援活動▽「地域勉強会～ホームレス支援ボランティアから感じたもの～」（触沢陽介＝同）ホームレス支援活動と行政機関、地域に対する勉強会の開催▽「大学生の参加による観光資源を活用した地域経済活性化のための研究」（熊谷歩＝同大総合政策学部4年）岩手の自然や歴史、食など地域資源を活用した観光客誘致のための情報発信